

「鳴子ダム水源地域ビジョン策定委員会 第2回策定委員会」について

平成17年3月23日(水)鳴子ホテルで、鳴子ダム水源地域策定委員会(第2回)が、策定委員21名の参加の下で開催されました。

1. 第2回策定委員会の概要

- (1) 日 時：平成17年3月23日(水)14:30~17:00
- (2) 場 所：鳴子ホテル5階コンベンションホール宮城野
- (3) 参加者：21名(7名欠席)

第2回策定委員会の経過と様子は次のとおりです。

開会后、事務局より、第1回策定委員会後の経過報告(かわら版の発行やアンケート調査の実施など)があり、第1回策定委員会の意見に基づいた、鳴子ダム水源地域ビジョンの方向性について説明を行い、これに基づいた議論が行われました。

なお、第3回策定委員会は、5月下旬に行う予定です。

2. 議事の概要(各委員の発言の要旨)

委員のみなさまからご発言いただいたご意見を、水源地域のありようなど、項目別に整理すると、以下のとおりです。

{ 水源地域のありよう }

鳴子町への来訪者ばかりでなく、水源地域内外の大人から子どもまで楽しめるような仕組みづくりが必要

水源地域が主体で、地域の人が前向きに活動して地域をつくりあげていく

廃校となる鬼首中学校を地域、教育、産業などをキーワードとする情報発信の場につなげる

{ 地産地消で地域を活性化 }

地域の農産物(根菜類、蕎麦など)を地域内で流通し地産地消につなげ、水源地域の活性化につなげる。

地域の食材を学校の給食に提供し、子ども達に地域食材のよさを継承していく

地産地消で地域が活性化するうえでは、生産者の能力に見合った対応も必要

{ 誰に楽しんでもらうか }

地域内外の人、年齢層、趣向などに対応するプランづくりが必要(釣り、山菜採り、水遊びなどファミリー層がみんなで楽しめるようなもの)

{ PR活動が大事 }

鳴子町には、さまざまな資源や特色ある活動が行われているが、あまり知られていないようで、戦略的にPRしていく必要がある

地域活動のPRについては継続的に情報発信を行い、情報が水源地域全体に定着するPR手法が必要

地域の人々が地域のセールスマンになるような意識づくりで取り組むことが必要

〔 何をPRしていく 〕

水源地域に降り積もった一握りの雪が川に流れダムに貯まる、そのような「水の循環」なども、実際に訪れて体感してもらう

水源地域のもつ資源を「森林セラピー（医療療法）」などで活用し、自然の役割や機能を体感してもらう

江合川上流でのブナの苗木の植林など地域環境の保全活動

鳴子町内の温泉街の回遊性（湯めぐり手形など）、観光協会が取り組んでいる温泉療養プランなど、鳴子ならではの特色をもった活動をPRしていき、地域の元気につなげていく

〔 横の連携も密に交流 〕

地域間交流は合併後の「大崎市」が主体となるので、近隣地域へのPRが必要

合併後も、地域のよさを継承していくことが必要

情報発信では交流できない。人と人のうごきがあつての交流なので、そのための魅力づけをしていくことが必要

地域活動団体の連携を図り、一元的に推進してはどうか

情報を共有するための定期的な活動や、町のコンシェルジュ（案内人）として、観光をはじめとする情報を提供していくことが必要

ビジョンを推進していく組織作りが必要

〔 活動の拠点づくり 〕

荒雄湖畔公園を活用して、現在の運動機能や休養機能に、産直販売や情報発信などの機能を充実して拠点化してはどうか

〔 アクセスの改善 〕

湖西道路などインフラ整備が必要だが、鳴子町や鬼首地区に来やすいアクセス確保・提供が必要

〔 ダムの役割・ダムの活用 〕

ダムへの来訪の機会が薄れており、総合学習のため、児童用のパンフレットやビデオなどの教材を作成し、PRしてはどうか。

スローライフ週間冬編に続き、鳴子ダムを拠点とした「夏編」の活動を計画しており、四季を通して活動するようなメニューづくりが必要



第2回委員会のようす



第2回委員会のようす